



JASDAQ

平成 25 年 4 月 18 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ノ ジ マ
代表者名 代表執行役社長 野島 廣司
(JASDAQ・コード 7419)
問合せ先 代表執行役専務 三枝 達実
電 話 0 5 0 - 3 1 1 6 - 1 2 1 2

(訂正)「平成 24 年 3 月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の
一部訂正に関するお知らせ

当社は、平成 24 年 5 月 8 日 15 時 10 分に発表した表記開示資料について一部訂正がありましたので、お知らせします。なお、数値データについては、訂正はありません。

1. 訂正の内容

「平成 2 4 年 3 月期決算短信〔日本基準〕(連結)」3 ページ

1. 経営成績

(2) 財政状態に関する分析

訂正箇所には下線を付しております。

(訂正前)

①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産額は、商品及び製品の減少 33 億 74 百万円、未収入金の減少 6 億 60 百万円等がありましたが、売掛金の増加 14 億 79 百万円、新規店舗出店等による有形固定資産の増加 22 億 98 百万円、敷金及び保証金の増加 4 億 89 百万円、基幹システムの入替によるソフトウェアの増加 6 億 59 百万円等により、前連結会計年度末に比べ 16 億 34 百万円増加し 656 億 88 百万円（前期比 2.6%増）となりました。

負債額は、買掛金の増加 22 億 90 百万円、長期借入金の増加 16 億 1 百万円等がありましたが、短期借入金及び 1 年内返済予定の長期借入金の減少 6 億 97 百万円、未収還付法人税等の発生による未払法人税等の減少 22 億 40 百万円、負ののれんの償却による減少 10 億 62 百万円等により、前連結会計年度末に比べ 92 百万円減少し 432 億 83 百万円（前期比 0.2%減）となりました。

純資産は、剰余金の配当 3 億 80 百万円の支出があったものの、当期純利益を 21 億 19 百万円計上したことにより、前連結会計年度末に比べ 17 億 27 百万円増加し 224 億 5 百万円（前期比 8.4%増）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、負ののれん償却額 10 億 62 百万円、売上債権の増加額 14 億 79 百万円、有形固定資産の取得による支出 40 億 16 百万円、長期借入金の返済による支出 29 億 60 百万円等の減少要因がありましたが、税金等調整前当期純利益 31 億円を獲得し、減価償却費 17 億 36 百万円、仕入債務の増加額 22 億 90 百万円、長期借入れによる収入 41 億 24 円等の増加要因により、前連結会計年度末に比べ 2 億 17 百万円増加し、37 億 59 百万円（前期比 6.1%増）となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は 50 億 5 百万円（前期比 452.5%増）となりました。

これは主に、負ののれん償却額 10 億 62 百万円、売上債権の増加額 14 億 79 百万円、前受金の減少額 11 億 63 百万円等の減少要因があったものの、税金等調整前当期純利益 31 億円を獲得し、減価償却費 17 億 36 百万円、たな卸資産の減少額 33 億 88 百万円等の増加要因があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は 49 億 91 百万円（前期比 71.1%増）となりました。

これは主に、新規店舗出店等による有形固定資産の取得による支出 40 億 16 百万円、敷金及び保証金の差入による支出 8 億 66 百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は 2 億 3 百万円（前期は 13 億 89 百万円の使用）となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出 29 億 60 百万円、配当金の支払額 3 億 80 百万円、社債の償還による支出 2 億 50 百万円等の減少要因があったものの、長期借入れによる収入 41 億 24 百万円があったためであります。

(訂正後)

①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産額は、商品及び製品の減少 33 億 74 百万円、未収入金の減少 6 億 60 百万円等がありましたが、売掛金の増加 14 億 79 百万円、新規店舗出店等による有形固定資産の増加 22 億 98 百万円、敷金及び保証金の増加 4 億 89 百万円、基幹システムの入替によるソフトウェアの増加 6 億 59 百万円等により、前連結会計年度末に比べ 16 億 34 百万円増加し 656 億 88 百万円（前年同期比 2.6%増）となりました。

負債額は、買掛金の増加 22 億 90 百万円、長期借入金の増加 16 億 1 百万円等がありましたが、短期借入金及び 1 年内返済予定の長期借入金の減少 6 億 97 百万円、未収還付法人税等の発生による未払法人税等の減少 22 億 40 百万円、負ののれんの償却による減少 10 億 62 百万円等により、前連結会計年度末に比べ 92 百万円減少し 432 億 83 百万円（前年同期比 0.2%減）となりました。

純資産は、剰余金の配当 3 億 80 百万円の支出があったものの、当期純利益を 21 億 19 百万円計上したことにより、前連結会計年度末に比べ 17 億 27 百万円増加し 224 億 5 百万円（前年同期比 8.4%増）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、負ののれん償却額 10 億 62 百万円、売上債権の増加額 14 億 79 百万円、有形固定資産の取得による支出 40 億 16 百万円、長期借入金の返済による支出 29 億 60 百万円等の減少要因がありましたが、税金等調整前当期純利益 31 億円を獲得し、減価償却費 17 億 36 百万円、仕入債務の増加額 22 億 90 百万円、長期借入れによる収入 41 億 24 百万円等の増加要因により、前連結会計年度末に比べ 2 億 17 百万円増加し、37 億 59 百万円（前年同期比 6.1%増）となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は 50 億 5 百万円（前年同期比 452.5%増）となりました。

これは主に、負ののれん償却額 10 億 62 百万円、売上債権の増加額 14 億 79 百万円、前受金の減少額 11 億 63 百万円等の減少要因があったものの、税金等調整前当期純利益 31 億円を獲得し、減価償却費 17 億 36 百万円、たな卸資産の減少額 33 億 88 百万円等の増加要因があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は 49 億 91 百万円（前年同期比 71.1%増）となりました。

これは主に、新規店舗出店等による有形固定資産の取得による支出 40 億 16 百万円、敷金及び保証金の差入による支出 8 億 66 百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は 2 億 3 百万円（前年同期は 13 億 89 百万円の使用）となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出 29 億 60 百万円、配当金の支払額 3 億 80 百万円、社債の償還による支出 2 億 50 百万円等の減少要因があったものの、長期借入れによる収入 41 億 24 百万円があったためであります。

2. 訂正の理由

現在進めております平成 25 年 3 月期決算短信の作成過程におきまして、平成 24 年 3 月期決算短信の(2)財政状態に関する分析の記載に誤りがあることが判明いたしましたので、提出済みの決算短信を訂正させていただくものであります。

以 上